

博物館活動を通じた砂防学習について —立山カルデラ砂防博物館の事例—

今井清隆・河村光人・中村貞敏・○飯田 肇・丹保俊哉（立山カルデラ砂防博物館）
澤田豊明（NPO 山の自然文化研究センター）

はじめに

立山カルデラ砂防博物館は、富山県立山町の立山黒部アルペンルートの玄関口に位置し、立山カルデラの自然、歴史とそこで行われている砂防事業について紹介している。屋内展示として、立山カルデラ展示室と SABO 展示室を持ち、また、「崩れ」「立山カルデラ大地のドラマ」の 2 本の大型立体映像で立山カルデラを疑似体験できる。

博物館のもう一つの特徴は、立山カルデラ地域そのものを館の野外ゾーンと位置づけ、現地を年間 32 回訪れる立山カルデラ砂防体験学習会（以下 体験学習会）を実施していることである。砂防事業でも、構造物によるハード対策とともに防災情報の共有等によるソフト対策が実施されている。この体験学習会も、土砂災害防止に向けてのソフト面での試みの一つとして重要な位置を占めると考えられる。

ここでは、平成 10 年度以降継続して実施されてきた体験学習会の成果を振り返り、今後の活動の指針としたい。

1 体験学習会の概要

体験学習会は、立山砂防事務所の砂防事業の本拠地である立山カルデラ内（標高約 1200 m）を実際に訪れて、現地を体験してもらう事業である。

現地は、現在も砂防工事が行われている危険地帯で一般の立ち入りが禁止されており、見学者の安全対策を実施して公募により見学会を実施している。

立山カルデラ内への入山には、図-1 に示

すように、常願寺川に沿って敷設された砂防工事専用軌道（トロッコ）と有峰林道経由のバスの使用がある。立山カルデラ内の約 15ヶ所の観察地点の移動は徒歩か小型バスによって行われる。開催期間は 7 月から 10 月まで、水曜日と金曜日に合計 32 回計画されている。日帰りコースで 1 班が 20 名の 2 班編成で実施され、人気のあるトロッコには行きか帰りの片道乗車できる。なお、雨天が予想される場合は、前日及び当日の判断で中止とすることもある。

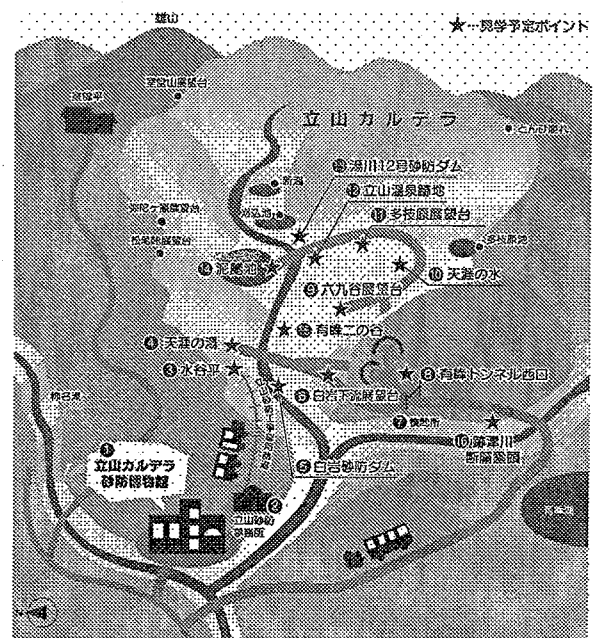


図-1 体験学習会コースの概要

2 体験学習会の成果

参加者数の年度毎の推移を図-2 に示す。年毎に悪天による中止回数が異なるためばらつきがあるが、9 年間で総計 7625 名の参加者が立山カルデラを体験した。年平均では 874 名となる。

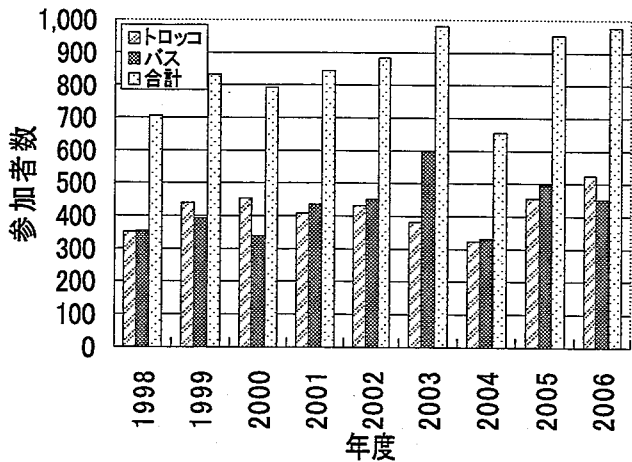


図-2 参加者数の推移

また、実施アンケート結果より次のことがわかった。

参加者は、富山在住者が約 67%で、愛知、東京、石川、新潟の順で 2~3%となっている。また、体験学習会を知った方法は、知人から 36%、博物館広報誌 27%、インターネット 15%、新聞 14%、その他 20%である。参加目的別に見ると、砂防を見る 74%、自然体験 16%、トロッコ乗車 9%であった。参加者の大半は初めての参加で 86%を占め、2回目が 10%、3回以上が 3%であった。

見学内容については、約 15ヶ所の観察ポイントに対して 90%の参加者が十分であるとし、約 7時間の見学時間にも 92%の参加者が満足している。現地での解説については、よく理解できたが 50%、ある程度理解できたが 48%、理解できなかったが約 2%となった。理解できない理由として専門用語が多い、声が聞きづらい等があげられた。

観察地点で印象に残ったものとして、多い順に、六九谷展望台、天涯の湯、白岩下流展望台、泥鱈池、白岩砂防堰堤、トロッコ、跡津川断層露頭、立山温泉跡などがあげられる。

3 体験学習会の効果

体験学習会の効果について、アンケート結果等より検討を行った。

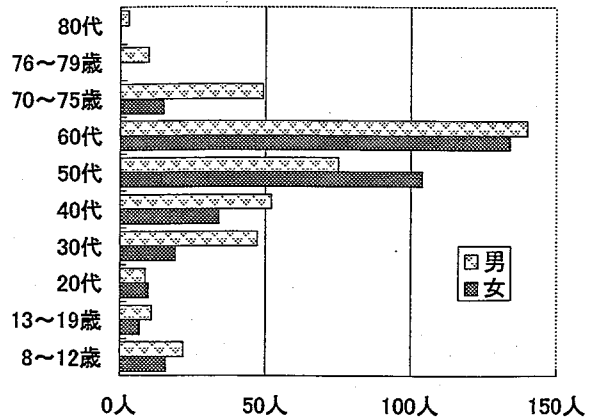


図-3 参加者の年齢構成

図-3のとおり、参加者の 36%が 50歳代以上の男性、ついで 31%が 50歳代以上の女性で、高齢者の参加が約 70%となっている。この理由として、平日の実施であることが考えられる。また、参加者の大半は富山在住者であり、県民に砂防を知ってもらうよい機会となっている。広報の方法は参加した知人からの情報が最も多く、広報誌やインターネットが大きな役割を果たしている。参加目的は砂防事業・施設の見学が多いが、自然体験やトロッコ乗車も隠れた人気を有するものと思われる。

見学者の満足度については、大半の参加者は、時間の長さ、観察地点数、理解度等で良好である。また観察地点中で、六九谷展望台のようなカルデラ全体の概念が分かりやすい場所が、特に印象深いようである。

まとめ

体験学習会は、多くの参加者に野外体験をとおして、自然の厳しさを背景とした砂防の意義を学習してもらうよい機会となっている。しかし、希望者が多く応募採択率が 32%であること、悪天による中止のため実施率が 70%程度であること、平日開催のため参加年齢層に偏りがあること等の問題点も上げられ、今後改善への検討が必要と考えられる。